◎ ACG プレスリリース　–展覧会開催のご案内–

YAGI ART MANAGEMENT, INC.
ARTCOURT Gallery

石塚源太「Absence」

Genta Ishizuka: *Absence*

［出展作品］《Membrane Spot (Bengara)》
漆、麻布｜乾漆技法｜35.6 x 30.4 x 21.4 cm｜2025年｜撮影: 来田猛

アートコートギャラリーでは、石塚源太 (b.1982) の個展を開催します。

石塚は京都市立芸術大学で漆工を学び、ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートでの交換留学を経て、大学院修了後の2000年代後半より美術家として作品発表を開始。乾漆技法[*1]による有機的・流線的な抽象造形や、研ぎ出し[*2]で宇宙的な空間を表現した平面作品によって、漆特有の透明な「皮膜」と「つや」から喚起される知覚経験を主題に制作を続けています。

漆という自然素材のふるまいの中に根源的な美を捉え、工芸と現代美術の領域を切り結びながら新鮮な驚きをもたらす石塚の表現は国内外で高く評価され、2019年に「ロエベ・ファンデーション・クラフト・プライズ　2019」にて大賞を受賞、2024年には京都府文化芸術賞奨励賞を受賞しました。また、京都市京セラ美術館を始め、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、大英博物館、ミネアポリス美術館に作品が収蔵されるなど、着実にキャリアを積み重ねています。

これまで、表面の「つや」によって漆の「皮膜」をいかに表現するかを追求してきた石塚ですが、当廊で約6年ぶりとなる個展では、マットな塗りの光沢と穴の空いた新たな造形シリーズ《Membrane Spot》によって、内部の空洞を露わにし、「不在」を内包する「皮膜」の存在そのものを自身の漆表現の本質として考察します。さらに、現存する乾漆像などの一部分「残欠」に着想を得た半立体の壁掛け作品や、《Taxis Groove》シリーズの新作と合わせて、石塚の新たな挑戦をご紹介します。

内部の原型（胎）の形自体には特別な意味を与えず、あくまでも漆の表情を引き出す「表面」を生み出すことに力を傾け、光を反射しながら底知れない奥行きを湛える漆の塗面に向き合い続けてきた石塚にとって、皮膜とは「不可視の内面の発露」ではなく、内／外、光／闇、自／他など、異質なものどうしが偶然性を孕みながら互いに浸透し、作用し合う関係そのものだと言えます。

本展の中心となる《Membrane Spot》は、脱活乾漆技法[*3]によって制作されています。そこでは、樹液である漆に然るべき形を与えるための主体=原型（胎）を失い、それを覆っていた漆の皮膜自体が自立した存在へと変化し、さらにその膜の一部に穿たれた穴を通して空虚な内部が姿を現します。両義的な意味を生み出してきたつやは、滑らかでマットな質感へと置き換えられ、包み込む対象をなくして皮膜であることさえもやめた名付けがたい存在と、その内側に息づく闇に満たされた不在、双方の分かち難さが際立ちます。

また一方で、石塚は、椀や箸、調度物などの漆器として東アジアを中心に人々の生活に浸透し、手触りや音、匂いなどともに形作られてきた漆と人間の関係についても関心を寄せており、身体に宿る親密な漆の記憶と自身の表現を結びつける手がかりとして、塗りの行為や器（特に椀）の外／内の構造を喚起させる質感や形の構想を温めてきたとも言います。

漆の技法と特性を独自の考察力と感性で解体し、二元論や因果関係といった従来の経験則では捉えきれない未知なる可能性を孕んだ表現として再構築するとともに、生きる営みの中に根差した漆の風景を純粋な視覚的経験と交差させる石塚源太の新たな試みをぜひご高覧ください。

1. 土台となる原型（胎）に麻布を貼り重ね、さらに漆、木粉、砥粉を混ぜ合わせたものの塗り重ねと研磨を何層にも施して造形物を制作する技法。
2. 下塗りの工程で複数の色で漆を塗り重ねたり、貝などを埋め込み、砥石などを使って表面を削り模様を作り出す技法。石塚は埋め込む素材としてカッターナイフの刃や釣り針、ワッシャー、縫い針、シャープペンシルの芯などを用いる。
3. 乾漆技法によって制作された造形物の一部に穴を開けて原型（胎）を取り除き、内部を空洞にする技法。

【展覧会概要】

展覧会タイトル ：**石塚源太「Absence」**　Genta Ishizuka: *Absence*
会　期 ：**2025年 6月21日 [土] – 7月26 [土]　日月祝休廊**
会　場 ：アートコートギャラリー
開廊時間 ：11:00–18:00 [土曜日–17:00] *7/25 [金] は天神祭による交通規制のため15:00まで

◆ 関連イベント

6月21日 [土]　14:00–15:30 対談［清水穣氏（美術評論家・同志社大学教授）**x 石塚源太］**
15:30–17:00 レセプション

*対談は要予約（Email: info@artcourtgallery.com または Tel: 06-6354-5444）、定員20名
*ともに参加費無料

主催：アートコートギャラリー（株式会社八木アートマネジメント）
協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

［参考作品］《Stellar Dance》
漆、ワッシャー、カッターの刃、縫い針、釣り針、ホチキス、合板、その他
120 x 120 x 3.5 cm｜2018年

【お問い合わせ】アートコートギャラリー［ 担当：清澤・灰田 ］　※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F　TEL: 06-6354-5444　FAX: 06-6354-5449　E-mail: info@artcourtgallery.com　www.artcourtgallery.com

◎ ACG プレスリリース　－展覧会開催のご案内－

YAGI ART MANAGEMENT, INC.
ARTCOURT Gallery

石塚源太「Absence」

Genta Ishizuka: *Absence*

◆ ステイトメント

Absence

数年前、立体作品を壁面に展開する過程で、壁に合わせ作品をカットした。そのときに内側が露わになり、覗き込んだことで、自分の作品が乾漆技法による「皮膜」によって成り立っているということに気づいた。それまで私は、作品を一つの「塊」として捉えていたが、内側を覗き込むことで、その本質が「皮膜そのもの」にあることを強く認識したのである。

漆は木の樹液を精製したもので、塗る対象がないとそれ自体で形を持つ事はできない。胎（たい）と呼ばれる原型を用意する事でその姿、表情は生まれる。私の作品の原型、つまり胎は伸縮性の布の袋に発泡スチロールの球体やアルミのダクトホースなど作品の構造となるものを入れて作られている。その上から麻布を漆で貼り重ね、下地を施し漆を塗っているのである。壁面作品を作ったときに原型となっていたものを取り除くことで乾漆の皮膜自身が自立して存在するようになった。このことにより、原型という主体を失いながらも、「存在と不在」が共存している状態が生まれた。今回の個展はそのあたりの経験に端を発している。

『般若心経』の「色即是空、空即是色」という教えが示すように、万物は実体を持たず、その空虚さの中に意味が宿る。漆の皮膜は空洞という「不在」を抱えながらも、確かな存在として立ち現れるのである。

石塚源太

［参考作品］《Membrane Spot》
漆、麻布｜乾漆技法
35.9 x 29.3 x 19.5 cm
2025年｜ 撮影: 来田猛

［作品プランスケッチ］

【お問い合わせ】アートコートギャラリー［ 担当：清澤・灰田 ］　※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F　TEL:06-6354-5444　FAX:06-6354-5449　E-mail:info@artcourtgallery.com　www.artcourtgallery.com

YAGI ART MANAGEMENT, INC.
ARTCOURT Gallery

◆ 石塚源太　Genta Ishizuka

1982　京都生まれ
2006　京都市立芸術大学工芸科漆工専攻 卒業
　　ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン) 交換留学
2008　京都市立芸術大学大学院工芸科漆工専攻 修了
2019　ロエベファンデーションクラフトプライズ2019 大賞
　　京都市芸術新人賞
2024　京都府文化賞奨励賞

| 個展 |
2025　「『Primary Surface』by ARTCOURT Gallery」CADAN有楽町 Space L、東京
2024　「Internal」Erskine, Hall & Coe、ロンドン
2021　「ACG Window Gallery: Genta Ishizuka」アートコートギャラリー、大阪
2019　「多相皮膜」アートコートギャラリー、大阪
2018　「Membrane」Erskine, Hall & Coe、ロンドン
2017　「相対手考」アートスペース虹、京都
2015　「感触の表裏」アートスペース虹、京都
2013　「つやのふるまい」アートスペース虹、京都
2011　「たゆたうさかいめ」アートコートギャラリー、大阪
2010　「wonderment」アートスペース虹、京都
2009　「塗面の次元」アートスペース虹、京都
2007　「表層からの気配」アートスペース虹、京都

| グループ展 |
2025　「LOEWE Crafted World」原宿、東京 ['24 上海]
　　「Materiality in Progress: Exploring New Materialism in Contemporary Art, Curated by Akari Endo-Gaut 」Nina Johnson、アメリカ
　　「Small Works, Great Artists」Erskine, Hall & Coe、ロンドン ['20,'23]
2024　「日本の美術工芸を世界へ特別展 工芸的美しさの行方ーうつわ・包み・装飾」TERRADA ART COMPLEX II BONDED GALLERY、東京／建仁寺書院、京都
　　「LOEWE Lamps」Palazzo Citterio、ミラノ
2023　「平衡世界 日本のアート、戦後から今日まで」大倉集古館、東京
　　「漆風怒濤－現在を駆け抜ける髹漆表現－」石川県輪島漆芸美術館、石川
　　「Slow Culture #kogei」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都
　　「開廊20周年記念展 Vol.2」アートコートギャラリー、大阪
　　「跳躍するつくり手たち：人と自然の未来を見つめるアート、デザイン、テクノロジー」京都市京セラ美術館 東山キューブ、京都
2021　「石塚源太 ＋ 西條茜 by ARTCOURT Gallery」CADAN有楽町、東京
　　「根の力 THE POWER OF ORIGIN」大阪日本民芸館、大阪
2019　「第4回 金沢・世界工芸トリエンナーレ 越境する工芸」金沢21世紀美術館 市民ギャラリーA, B、石川
　　「Yo Akiyama & Genta Ishizuka」Erskine, Hall & Coe、ロンドン
　　「LOEWE FOUNDATION Craft Prize 2019」草月会館、東京
　　「ACG Villa Kyoto Vol.002 袴田京太朗 x 石塚源太」ACG Villa Kyoto、京都
2018　「15年」アートコートギャラリー、大阪
　　「現代漆芸」金沢市立安江金箔工芸館、石川
2017　「Hard Bodies」ミネアポリス美術館、ミネソタ
　　「高見島–京都 日常の果て」[APP ARTS STUDIOとして参加]
　　京都精華大学ギャラリーフロール、京都
　　「オープンシアター2017」KAAT神奈川芸術劇場、神奈川
2016　「瀬戸内国際芸術祭2016」[APP ARTS STUDIOとして参加] 高見島、香川
　　「リフレクション」岐阜県現代陶芸美術館 ギャラリーII、岐阜
　　「美の予感 2016–啓蟄–」高島屋美術画廊(日本橋/大阪/京都/新宿/名古屋/横浜 巡回)
　　「Feather」 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都
2015　「オノミチ・ランデブー」尾道市立美術館、広島
　　「Japan spirit×15」オリエアート・ギャラリー、東京
　　「still moving」[APP ARTS STUDIOとして参加]、元崇仁小学校／崇仁地域周辺、京都
　　「琳派400年記念 新鋭選抜展」京都文化博物館、京都
2014　「現代美術工芸の新しい地平 PartI 漆と陶–素材を超えて」渋谷ヒカリエ8/CUBE 1,2,3、東京
　　「京都府美術工芸新鋭展」京都文化博物館、京都
2011　「六甲ミーツ・アート」[ユニット(ゆ)として参加] 六甲山上駅内、兵庫
　　「VOCA展2011」上野の森美術館、東京
2010　「きょう・せい」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都
2008　「アートコートフロンティア#6」アートコートギャラリー、大阪
　　「CRIA展」京都芸術センター、京都
2006　「京都現世美術館」建仁寺禅居庵、京都
2005　「FRAME」海岸通ギャラリーCASO、大阪

| パブリックコレクション |
大英博物館、ロンドン
ヴィクトリア&アルバート博物館、ロンドン
アシュモレアン博物館、オクスフォード
ミネアポリス美術館、アメリカ
京都市京セラ美術館
LOEWE ART COLLECTION、スペイン
UESHIMA MUSEUM COLLECTION、東京

［参考作品］《Taxis Groove (Torn)》
漆、麻布、他 | 乾漆技法 | 116 x 86.5 x 90.3 cm
2025年 | 撮影: 来田猛

「跳躍するつくり手たち: 人と自然の未来を見つめるアート、デザイン、テクノロジー」
京都市京セラ美術館 東山キューブ、京都 | 2023年
提供: 京都市京セラ美術館　撮影: 来田猛

個展「多層皮膜」
アートコートギャラリー、大阪 | 2019年 撮影: 来田猛

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当：清澤・灰田]　※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F　TEL:06-6354-5444　FAX:06-6354-5449　E-mail:info@artcourtgallery.com　www.artcourtgallery.com